

もし 日本と云う国がなかったら

ロジャー・パルバース 坂野由紀子 訳 集英社

(まえがき)

2008年9月21日の午後1時半岩手県花巻市北上川の川岸に佇んでいた、宮沢賢治が息を引き取ったのが75年前のその瞬間で私は全身が震えるのを感じ賢治が何か伝えようとしたのでしょうか……

宮沢賢治のメッセージとは「人は幸せで満ち足りた人生を送りうるのだ」と云うことで本書のテーマの一つはどの様にすればそのように幸せに満ちた人生を送り、しかもその幸せを他の人にも「おすそ 分け」できるのだろうかと云うことです。

日本と云う国は世界にとってなくてはならない必要な存在です、日本には希望と前途があります、習慣や伝統日本ならではの考え方、明るい未来を創るための鍵は日本の文化の中にあります「あなたがその文化と、どう関われるか」にあるのです。

経済あつての文化ではなく文化あつてこそその経済です、日本の人がそれを理解するとき日本経済に対する信頼も国内外で回復する事でしょう。

日本の皆様に「雨ニモメケズ」の宮沢賢治のように「そういう人に私はなりたい」と云ってもらえるように、そしてそういう人に私はなるのです。

{ ここが僕の国だ～タクシーの窓から見えたもの }

1967年9月、23歳で羽田空港に到着した時、言葉も話せず知り合いは一人もいなかった、ロビーの案内所で安い宿を紹介されタクシーを使うようにと(所持金300ドルだけにタクシー代1500円も)タクシーの窓から東京の夜の街を驚きの目で夢中になって見つめ万華鏡の様なネオンの光とりつかれに「ぼくは死ぬまでこの国に永住するぞ、ここが僕の国だ」と。

日本に来る前に知人から若泉敬教授を紹介されて、その若泉先生から京都産業大学の荒木学長を紹介されてロシア語とポーランド語を教える専任講師のポストを提示された、学長はアインシュタインとも交際があり日本の天文学の第一人者の一人であり、又、湯川秀樹・朝永振一郎の恩師でもあった。

「日本に来るキッカケ」

1957年10月4日ソ連による初の人工衛星スプートニクの打ち上げがアメリカに与えた衝撃は凄まじいものだった「遅れている、ましてや無神論者の集まり」の共産主義国がアメリカにとって夢に見るしかなかった偉業を成し遂げ、考えられない事だった。

13歳の僕は望遠鏡で夢中になった、早速図書館からロシア語入門の本を借りロシア語を我流で学び始めた、正式に勉強できるようになったのは4年後、

ハーバード大学を21歳の時、修士で卒業、20歳から24歳の間ロシア語・ポーランド語・そして日本語を身に着けることが出来た。

今では学生達に「若い人間の脳はスポンジのようなもの、望めば何でも吸収できる、必要なものは好奇心と熱意だけだ」と～外国語を話すときは別人になれる～自分を客観的に眺められ、想像力を働かせ相手の本心を知る、外国語の勉強ほど物事の真理を明らかにし多くの事を教えてくれる刺激的な体験は他にありません。

{ 新しい日本を作るのは「反逆精神」だ }

13歳の時に僕は両親に天文学者になりたいと告げ、それが両親と数十年続くケンカの始まりとなった、持つべき夢は親のモノであり僕自身の夢とは別物であると気づいた。

両親は自分達が夢見ていた姿にボクを、しかし自分の夢を次の世代にバトンタッチすることはできません、教育とは子供達に「反逆し子供達の夢を見るための道具と武器」を授けるべきです。

{ 驚くべき創造力の国へ } 僕の人生はあらかじめ準備されていた

* 日本のモノの考え方が世界を救う～日本に来てから44年この国が今ほど精神的に深く落ち込んでいるのを見るのは初めて、しかし日本人は間違いなく驚くべきオリジナリティの国です、今の日本は「ファイト」「ハッスル」「ハングリー」のエネルギーが欠けている。

* 世界には誠実で正直な日本が必要だ

～荒木学長が日本に招いたアーノルド・トインビーの案内役を命じられ奈良ホテルの朝食に西洋式のモノが出たがトインビー夫人は下げさせてスシ・サシミ・テンプラをリクエストした、驚いたことに暫くして寿司・刺し身・天ぷらが出された。

～1969年今一人招いた米国の未来学者ハーマン・カーンは商人の町大坂で起業家向け講演に於いて「日本は世界を21世紀へと導くリーダーだ」「日本は今世紀末迄に米国を超える経済大国になるだろう」とも言った、しかし発言力のある米国人で日本を称賛している人は多いけれど彼らの目的は唯一つ「対米支援に一層力を入れてもらう事」で、一番恐ろしかったのは彼が文化も生活様式も精神も心も全く知らずにその国を理解できていると考えていたという事実だった。

～誠実で正直で熱意溢れる日本、自分達の主義を保ちつつも意見を変えたり罪を償ったりすることに前向きな人々のいる日本を世界は必要としています。

日本の現在だけでなく過去も受け入れなければならない「20世紀に起きたことに対して責任がある」というこの感覚を体の芯で感じた時、僕は日本人になったと思いました。

{ 日本人も知らない本当の世界遺産とは }

{ 日本ほど豊かな祭りや文化を誇れる国はない、イヤ他には一つもない }

日本人の中にそれを理解できている人が決して多くないこと、又日本のいたるところでその素晴らしい芸術や演劇の遺産が大きく失われつつあることは日本だけでなく世界とって、とてつもなく大きな悲劇です、自国の伝統・文化を学び・支え・経験し・心から誇りに思うようにしてほしい。

{ 日本は「5つ」の独自文化で成り立っている }

但し5つの他にも沢山あるし、5つの地域の内部には驚く程のバリエーションがあります、5つの日本とは「東北・東京・京都・北九州・沖縄」です。

{ 東北 } ~類を見ない神秘性~

宮沢賢治の哲学は日本が生んだというより岩手県が生み出したと考えています。

{ 東京 } ~親子どんぶりの様な拝借文化~

日本は江戸です、粋で気の利いた威勢のいい男性のクールな文化。

{ 京都 } ~平安文化は京都の雅な美の基礎があつてこそ花開いた~

紫式部「源氏物語」清少納言の「枕草子」京都文化は柔らかく感性的で刺激的な女性の文化。

{ 北九州 } ~韓国文化の美しい影響~

芸術的な側面で韓国文化が大和文化に多大な影響を与えた事は北九州を旅してみると日本人に美を与えた影響を過小評価してはいけないと思います。

陶芸は北の大分から唐津・有田・南は鹿児島まで、国東半島の道端にある小さな石仏、宇佐付近の東光寺五百羅漢像など大陸的なものとして映ります。

{ 沖縄 }

音楽文化は他の日本よりはるかに喜びにあふれているように思われる、又色彩感覚も独特なもの。

{ 奇跡の積み重ねが僕らの人生を作る }

1971年オーストラリア国立大学の教授から京都で会いたいと、そして日本の現代文化を同大学で教える職を提示された、同教授は第二次大戦で捕虜側の日本人将校Aと友達となった、日本を訪れた際に大阪住まいのAを訪れて新しい教員を探しているとの会話でA氏の子息が「僕の京都産業大学の先生が適任だ」と父に伝えたことが契機となった、オーストラリアに赴任して今の妻と出会い、4人の子供にも恵まれた。人生において重大な決断をするとき、つまり住む場所・仕事・結婚相手など決める時は選択の余地はなく運命として受け入れるだけ、彼女と出会い恋することは正に奇跡の瞬間です。

{ 1960~70年代に現れた革命児達 }

~日本独特の大衆文化を作った天才達の功績~

* 赤とんぼの歌詞こそ最も日本的な感触がある、

1989年NHKの全国調査で日本人の好きな歌の第一位になった「夕焼け小焼けの赤とんぼ とまっているよ 竿の先」なんと三木露風が12歳の時に書いたもの。

- * 大島渚が象徴した驚くべき映画～1960年代文化「新宿泥棒日記」
- * 天才「つか こうへい」が作った、1970年代の日本大衆文化、在日韓国人二世「熱海殺人事件」「郵便屋さんちよっと」「戦争で死ねなかったお父さんの為に」等、彼の怒りや日本社会に対する皮肉たっぷりの視線「つか こうへい」の芝居は日本で大ブーム「ストリッパー物語」は大ヒット。
- * 世界的な表現者 ～井上ひさしさんとの出会いでは意気投合、オーストラリアに招き、ひさしの自宅にも長期滞在した、ひさし先生がもう一人の放送作家と共作したテレビ番組「ひょっこり ひょうたん島」は子供から大人まで大人気。

{ 1980年代の文化は若者文化 }

日本の若者が初めてポケットマネーを持つようになったり、自分の欲しいものに使った食べ物・ファッション・娯楽・車・旅行・新しいテクノロジー(コンピュータやビデオゲーム) 当時の10年間を代表する流行語は「国際化」「トレンド」「ナウい」でそれは盲目的で楽観主義の時代、彼らがこよなく愛した文化はマンガ・アニメ・カラオケ

{ 京都と舞鶴の途中～美山町檜原で我が家を建てた }

300坪の土地に大きな家を～我が家から徒歩で3分弱、1650年に建てられた日本最古の民家・重要文化財の「石田家住宅」があった、645年建立の大原神社もあった。4人の子供は日本で生まれ日本国籍は持っていないが家族全員自分たちの故郷に住んでいると。

{ 幕間の一言 }

日本と日本人は世界にとって絶対必要だ、宮沢賢治は短い生涯に2冊の本を出版、しかも自費でした、僕が文化と云うのはその国と国民の社会風土を決定する全ての要素と云う意味です。

1990年代に先ずバブルが崩壊、1995年1月阪神淡路大震災、その2ヶ月後にはオウム真理教による「サリンガス地下鉄テロ攻撃」 勿論人々は普段通りの生活を取り戻しました。

日本人はまだ預金を沢山持っていますがいつまで持つか分かりません、日本人の生活と文化を両立するためにどうしたらよいか、出生率が下がる一方で若者は内向き志向、政治家や官僚も国家の諸問題を解決するのに旧来の方法しか知らない、日本流の勤勉さ忍耐力があれば、この停滞期を乗り切れると思うのです、だがそうは問屋が卸さなかった、世界は未だかつてない程、幅広い意味での「日本文化」を必要としているのです、世界がこの国の莫大な財宝の様な文化に気づいて、

それを学び、世界に伝え売り込む方法を考えるべきです、気づいてほしい点は

- ① 一国の文化は反逆者と不適應者によって創造されるので年功序列はない、明治の文化を作ったのは必死に頑張った若い人たちだった。
- ② 文化を国防と同じレベルの重要な問題として考えるべき「富国強芸」を日本の新スローガンとして提案したい。

{ 日本の文化は「振る舞い」に表れている }

日本人だけが持つ礼儀正しさと特有のユーモアセンス、西洋から来た僕が何時も驚くのは日本では労働者階級の人でも礼儀正しいと云う事、アメリカでは絶対にないし、欧州・オーストラリア・ロシア・中国恐らく世界中のほとんどの国ではない事でしょう、このような礼儀正しさは日本社会全体にいきわたる共同精神の現れでもあります。

日本では災害が起こった時にはすべてに優先され国民が一丸となって被災地の復興を支援します、平時でも「みんなのおかげ」という言葉に表現される共同精神が見られる。

日本人特有のユーモアセンスとは、公の場ではユーモアが仕事は仕事、ここは冗談を云う場として姿を現さない、日本のユーモアは繊細で人生の日常的な出来事に根差しています、深い悲しみとあきらめがみられることもあります。

{ 世界が気づいた無私の心 }

日本の風土から生まれた利他の精神、2011年3月11日東北を襲った空前の惨事後世界中の人々が日本人の見せた回復力と整然とした行動ぶりを知った。

被災地の人々の内に秘めた力と不屈の精神、又改めて驚かされたのは被災者達の無私の心です、自分の悲しみを愛する人を失った他の人々への同情と悲哀に変えた。

賢治の「雨ニモマケズ」という誌が現代の日本で最も愛されるのも当然のことです。

{ 日本独自の「気配り」 }

日本の礼節とサービスの文化は間違いなくこの国の国宝の一つです。

シドニーと東京を往復した時、成田空港で日本酒を持ち込んでバックの中に入れていて見つかри、機内に持ち込めないから預け入れ荷物としてはどうですかと云われた、シドニー空港では食品の入った小さな瓶が二つ見つかリ「こんなもの機内には持ち込めない」と云われただけでなく、ニヤニヤしながら二人してここで食べなさいと云われて、とても後味の悪いものでした。

日本のスーパー等で買い物していて店の人に品物の置き場所を訊ねると作業の手を止め案内してくれて、何時も感激しています、僕の経験した何処の国でも期待できる最高のサービスは店員がぞんざいに、あっちです・とか何番の通路ですと云うだけ。

{ 日本のオリジナリティ }

僕は現状に満足せず未来に「現状」となるものの創造に全力を尽くす人達にひかれる傾向がある。

葛飾北斎の様な芸術家、宮沢賢治の様な作家、早川雪州の様な俳優、南方熊楠のような民族学者、高峰譲吉の様な科学者、これらの人は皆、卓越したオリジナリティを持った創造的天才です。

* 宮沢賢治の詩「何と言われても わたしはひかれる水玉 つめたい雫 すきとほった雨つぶを枝いっぱいに見てた 若い山ぐみの木なのである 」みてた、は みちたの意。

賢治は21世紀の僕らに向け「自然を破壊しないよう」「自然の力を利用せよ」と経済的に繁栄することは良いことだが全ての人の幸せを守る形ですること、進歩と云っても全ての人間に対する思いやり自然環境への愛情を忘れないようにと。

{ 真に非宗教的な先進国・日本 }

世界は対立しがち、救うのは日本以外にない。1990年代にトリプルパンチを受け(既述)日本人の自信に最後のパンチを食らわせたのは2011年3月に東日本を襲った未曾有の大震災とそれに続く福島第一原子力発電所の崩壊だった、日本はその生活様式を再生させ再創造すべく様々なことが変わり始めた。

- ① 自分だけの満足感に浸ろうとしている若い人たちの下位文化から方向性を変え他者のニーズを理解するような文化になりつつある(大震災のボランティアに若い人が)
- ② 多くの社会学者が女性・子供・老人・障害者・在日韓国人のような少数民族等に視線を向けるようになり貧困・機会の不平等・高齢者の持続可能な生活様式といったテーマが目立つように。
- ③ メディアまでもが遂に目を覚ました、女性や幼児に対する家庭内暴力、学校でのいじめ、職場でのセクシャルハラスメント、障害者に対する組織的な差別等、どれほど深刻な広がりを見せていたかを暴くようになってきた。最後に芸術家が作品の中で社会問題を大きく取り上げるようになった。

* 2007年周防正行監督映画「それでもボクはやっていない」は日本社会が抱える重大な問題である「冤罪」をとりまく実態を暴いた。

{ 日本再生の為の「4つのキーワード」 }

① 人種 ② 生まれた国、あるいは民族性 ③ 民族・民族性・民族意識 ④ 国籍
これらはどの言葉にも少しづつ重複する部分があり、これらの要素の総計が私達人間一人ひとりのいわゆるアイデンティティです。

* 21世紀においては人種という概念はもはや意味をなさない言葉、これからの日本人のアイデンティティは世間の人々がどう見るかどう判断するのかで決まるのではなく本人が自分自身をどう見るかによって決まる。

{ あらゆる宗教に敬意を払えるのは日本だけだ }

- * 日本は世界の指導的な国の中でも真に非宗教的な民主主義の国です。
日本の政策決定のプロセスには信仰の問題や宗教的な精神が入り込む余地はほとんどないと云える、米国・欧州・中国ではイデオロギーを含めそのような要素が政治に介入している。
- * 日本と云う国がなければ信仰やイデオロギーの衝突という今後も世界を悩まし続けるに違いない問題は世界中の人々にとり今より遥かに恐ろしい脅威となるでしょう。
- * 僕が世界で一番好きな作家は宮沢賢治です、彼がほくらに一番伝えたかったメッセージは光と希望に関するものだから、日本の人々が世界に貢献できるのは正にそれがあるから、つまり光を見出す力や希望を世界の人々と分かち合おうとする気持ちがあるからです。

以上